

「豪州 Rhodes Ridge 鉄鉱石事業権益取得」投資家向け説明会（英語開催）質疑応答

1. 日時： 2025年2月21日（金）17:30-18:30
2. 出席者： 執行役員金属資源本部長 稲室 昌也
鉄鉱石部長 土田 高行
IR 部長 小西 秀明

3. 質疑応答：

（2025年2月19日（水）の説明会との重複部分は除外しています。）

Q1：この案件は20年の歳月をかけて実現したとのことですが、このタイミングで実現した背景を教えてください。

A1（稲室）：まさに、20年の準備がこの取引に繋がりました。1960年代から西豪州に進出し、資源メジャーや創業者との関係を構築しています。特に過去数年間の協議がこの取引に繋がりました。即ち、突然のことではなく、継続的な対話と信頼から生まれたものだと考えています。

Q2：2030年という時間軸での生産計画について投資家が注意すべき課題やリスクについて詳しく教えてください。また、今後の進捗を推し測る上で、重要なマイルストーンが何かを教えてください。

A2（稲室）：当社は現時点では正式にはRhodes Ridge JVに参画しておらず、記載の数値は拡張を通じた増産を見込む当社の見立てに基づいています。Rhodes Ridge JVに参画し、進捗がありましたら皆さまにお知らせしていきたいと思えます。

Q3：投資家は、この大規模な取得が自己株式取得の終了を意味するのではないかと懸念しています。一方、13ページのキャッシュ・フロー・アロケーションを見ると、追加の自己株式取得の可能性が示されています。このスライドのメッセージを確認させてください。

A3（小西）：ご質問いただきました通りマネジメント・アロケーションの残高を1,000億円増やしました。さらなる成長投資や追加株主還元のための資金を十分に確保しており、成長投資と株主還元のバランスを重視する方針は変更ありません。これを13ページに含めたのは、投資家の皆さまに対してこの点に関しご安心戴くことが目的です。

Q4：基礎営業キャッシュ・フロー（COCF）見通しにおいて、年産40百万トン体制で1,000億円、1億トン超体制で2,500億円としていますが、これは現在の為替レートに近い前提を使用したものか確認させてください。

A4（稲室）：為替については、現在のレベルであるドル円レート150円を使用しています。なお、このレートは取得価格の換算にも用いています。

Q5 : インフラの一部が既に存在することを考えると、2030 年より前に生産が開始される可能性を期待できるのか教えてください。また、年産 40 百万トンという初期段階に到達するまでどの程度の時間を要するのか教えてください。

A5 (稲室) : 2030 年までの生産開始というのは、Rio Tinto の公表内容に基づいています。彼らの開発計画をフォローしながら、進捗がありましたらお知らせします。生産開始の早期化はもちろん望ましいですが、リスクを慎重に管理する必要があるとも同時に考えています。

Q6 : 世界の粗鋼生産が増加する見通しとのことですが、電炉の割合が増えると鉄鉱石の需要は横ばいになるのではないのでしょうか、考え方を教えてください。

A6 (稲室) : 中国や極東アジアからの生産は減少していくと見えますが、インド、東南アジア、アフリカ、米州など他の地域では生産が増加すると予想しています。電炉の割合はご質問の通り増加すると予想されますが、粗鋼生産の総量は同時に、依然として増加する見立てです。中長期的には、粗鋼を含む原料の需要は底堅いと見えています。

(小西) : 電炉を通じて高級鋼材を製造するには、よりクリーンな鉄鉱石が必要であることから、高品位鉄鉱石の需要は依然として強いと見えています。

Q7 : 鉄鉱石見通しについて教えてください。Simandou 鉱山の後に立ち上がりを予想する鉱山があれば教えてください。また、それらと比較した Rhodes Ridge の競争優位性についても教えてください。

A7 (土田) : 鉄鉱石供給について、Simandou の立ち上がりを直近見込んでいます。業界全体では、採掘費用の増加、事業環境の複雑化などの課題に向き合っていますが、Rhodes Ridge については既存インフラが存在する点、またそれに伴い開発リスクが低い点が競争優位性だと考えています。

(小西) Rhodes Ridge の低リンという特徴も強みで鉱石のブレンドにおいて付加価値をもたらすと考えています。

Q8 : 本件取得を踏まえると、当社は資源分野により重点を置く方針ということなののでしょうか。

A8 (小西) : 金属資源およびエネルギーは当社が強みを有する分野だと考えています。これらの分野に引き続き投資しながら、同時にモビリティ、ヘルスケア、プロテインなど他の事業も成長させ、バランスの取れたポートフォリオを維持していきたいと考えています。

Q9 : AMB が全持分を売却せずに 10%の持分を保持している理由を教えてください。

A9 (稲室) : 当社は回答する立場にありませんが、把握している点としては、AMB は操業に関与したいと考えているということと、また事業の潜在性に期待しているということが挙げられると思います。

Q10：中品位鉱を電炉プロセスで利用するための具体的な技術開発はどのように進められているのか、また期待される技術開発のタイムラインがあれば教えてください。

A10（稲室）：電気溶解炉は中品位鉱から不純物を除去するために開発されている技術の一つです。高炉が依然として主流ではありますが、技術の進展により、中長期的には温室効果ガス排出量が相対的に少ない鋼材の生産が可能になると期待しています。

（小西）：p.12 の図の点線は、将来的に中品位鉱を電炉で使用する可能性を示しています。高炉は依然として高級鋼材の生産に最も効率的な方法ですが、技術の進歩により、将来的には中品位鉱石の使用が可能になると見えます。